

「金が来ても辺野古の海に捨てて」

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先は迷走の末に、再び沖縄県名護市に戻ってきた。県民に失望感が広がるだけでなく、鳩山由紀夫首相にいったん期待を寄せた関係者にはさらに不信感が強まった。

日米合意に反対する市民集
会が28日、名護市で開かれ主
権者発表で約1200人が参
加し、「新たな基地は造らせ
ない」などと氣勢をあげた。

「子孫のため」

集会で参加者が最も沸いた
場面がある。移設反対の家
徴、嘉陽宗義さん(87)が訴え
かけたときだ。

「もし鳩山首相から莫大な
お金と感謝状が来ても、辺野

に移設反対のメンバーが夜ご
と集まった。

古の海に捨てて下さい。将来
必ず、子や孫からありがとう
と言われる日が来ます」

1996年12月、普天間の
移設先を「沖縄本島東海岸
沖」とする日米特別行動委員
会(SACO)合意が交わさ
れた。

嘉陽さんは目の前の海に新
基地を造る計画にはがまんな
らず、翌月発足した移設反対
の団体の相談役に。「嘉陽の
オジ」と慕われ、自宅居間

たという。

国が辺野古沖での海底ボー
リング調査を始めようとした
2004年4月、今も続く抗
議の座り込みが始まる。作業
船の行く手を阻むため力ヌー
で沖に向かう仲間を「必ず無
事で帰ってこい」と叫びなが
ら連日見送った。

移設計画が進まないまま
SACO合意は在日米軍再
編の過程で見直され、06年
5月、日米両政府はV字形
滑走路を造る理め立て案で
2度目の合意をする。しか
し、「絶対に造らせないと自信
があったから」失望しなかつ

「すわりこみ」「テント
村へ」。自宅居間の壁に据
え付けた高さ1.5メートル、幅2.5
の予定表は今も、自ら書き
込んだスケジュールでびっし
り埋まる。28日の欄には「普
天間で名護市集会」とだけ。

日米合意は気にも留めていな
い。

戦争で砲弾の破片が貫通し
た左太ももは痛むし、血圧は
ときに200を超える。集会
でマイクを握るときも、実は
吐き気や足腰の痛みで目がく
らむ。「でもオジはやめま
せん。向こうが力づくで来る
なら、命をかけても反対しま

す」

いつか「4度目の日米合
意」があると断言する。「辺
野古に造るなんて天の神、地
の神が絶対に許可しません。
海外には「せひうち」って
いうところもあるでしょ？
みんながいがみ合わないです
む決着が必ず来ますよ」

希望の反動

政権にいったん期待を寄せ
た人々の不信はさらに強い。

98年11月、当時、民主党幹
事長代理だった鳩山氏は知事
で3選を目指していた大田昌
秀さん(84)の応援に那覇市を
訪れた。「政治家として自分
の選挙区に普天間に代わる適
地がないか、真剣に考えなけ
ればならない」と訴える鳩山
氏に大田さんは「県民の思い
を理解している、見識の高い
政治家だ」と感じた。

しかし、大田さんは最近よ

く「沖縄は差別されている」
という言葉を目にするようにな
った。沖縄戦で本土防衛の
捨て石にされ、本土復帰後も
米軍基地が残る現状。「自公
政権では失望するしかなか
つたが、政権交代で初めて普天
間の県外移設に希望が持てた
のだが」。それが裏切られた
ことで、差別されているとい
う思いが増しているという。

普天間飛行場のフェンスか
ら数百メートルに住む宜野湾市の富
浜正子さん(76)は、すぎるよ
うな思いで鳩山氏に望みを託
してきた。しかし、5月初め
に来沖した首相が、富浜さん
も参加した住民対話集会で告
げたのは「大変難しい日米の
交渉の中で、皆さま方にもご
負担をお願いできればと、そ
の思いで今日は参りました」
という言葉だった。

「このままでは、政治その
ものが信じられなくなる」